

あいさつ表現の中・日比較文化的研究

—「労働」でのあいさつを中心に—

江端 義夫・張 磊¹

(2006年10月5日受理)

A comparative Study of the greeting expression between China and Japan

— In the case of the laboring utterance to the colleague —

Yoshio Ebata and Lei Zhang

Base on the labor related greetings the differences between greeting expressions of China and Japan were studied experimentally in the research. Expressions of labor related greetings in Chinese and Japanese were comprehensively investigated using questionnaire. According to these questionnaires, the greetings were classified and processed statistically. And then differences between the greeting expressions of China and Japan were discussed from following three aspects:

- 1) Differences between the greetings which are used among the colleagues when they want to end a work.
- 2) Differences between the greetings which are used among the colleagues when ones end their work and leave their office before others.
- 3) Differences between the greetings which are used by someone whose colleagues want to end their work and leave their office before himself or herself.

Key words: Greeting, Expression, Labor, China, Japan

キーワード：あいさつ、表現、労働、中国、日本

I. はじめに

1. 研究の目的と先行研究

1.1. 研究の目的

あいさつは人間の交流において大切な言語行動である。一般的に、人間の交流はあいさつをすることから始まる。国境を越えた人間の交流がますます盛んになりつつある現在、他者と交流する時の基本的な言語行動として、あいさつ表現を学ぶことは重要であろう。

本稿では、「労働」でのあいさつ表現を中心に、中国と日本における用例から、具体的な表現形式を記述して、あいさつ表現の差異を明らかにする。

1.2. 先行研究

藤原与一(1992)は『あいさつことばの世界』で、「あいさつことばとは何か」「あいさつことばの独自性」「あいさつことばの民俗学」など、あいさつことばに関する基礎的な研究を行った。さらに、方言世界でのあいさつことばを発想法・表現型・分布の見地からの研究を展開してみせた。

本稿では、藤原(1992)における日本での例を参考にしながら、考察を中日比較へと発展させる。

江端義夫(2000)には、日常のあいさつに関するあいさつ表現の調査票が示されている。また、江端義夫(2001)は、日本全国で行った実地調査と通信調査のデータから描いた言語地図によって、あいさつ表現を考察している。筆者の研究では調査票の作成において、江端(2000)を参考にした。

¹広島大学大学院教育学研究科博士課程前期在学

国立国語研究所(1984)は、1978年から1981年にかけて日本人とドイツ人と在日外国人を対象に、アンケート調査と観察調査などにより、日本人とドイツ人とのそれぞれの言語生活場面で営む言語行動の実態を記述し、両国話者間の言語行動様式の差異を探索したものである。

ト雁(1990)は、あいさつの意味とあり方、あいさつ表現の場面と発話と条件などについて考察を行っている。これは、あいさつ行動様式に関する基礎的研究であるといえる。とりわけ、「出会いの場面」のあいさつを中心とした中日比較を行っていることが注目される。

施暉(2005)は「道」「買物・食事」でのあいさつを中心に、日中両国語における言語行動について研究を行っている。調査データから日中両国語における各場面でのあいさつを取り上げ、記述、分析、対照を行い、両国語の共通点や相違点を解明する試みを行っている。

ト雁(1990)は、中日あいさつ比較研究の嚆矢として評価できる。とりわけ、基礎的な事柄が多く記述されている点に価値がある。他方、具体的な事例についての研究はあまり行われていない。施暉(2005)は、「道」「買物・食事」など具体的な事例について考察を行っているが、本研究で取り扱う「労働のあいさつ」については対象外とされている。以上のような研究状況下にあつて、①「労働のあいさつ」を取り扱うこと、②その中日比較研究であることが本研究の独自性であると言える。

2. 研究の方法

2.1. アンケート調査

調査は、2005年8～10月(中国)、2006年2～4月(中国)、2006年3～5月(日本)に実施した。2005年8～10月(中国)と2006年3～5月(日本)での調査は書留調査法によって行った。2006年2～4月(中国)での調査は2005年8～10月(中国)の補充調査として行った。調査票を調査者の知人に送付し、調査票の配布と収集及び日本への返送を依頼した。

2.2. 調査データの分析方法

具体的なあいさつ表現の用例を分類して、日本と中国におけるそれぞれのあいさつ表現の特徴を明らかにする。さらに、調査データを統計化して分析する。

分類の方法は、まず各項目の調査データを発想法によって分類し、続いて具体的な事象によって分類する。

2.3. 調査の概要

調査実施場所と調査人数

日本…西日本地域(主に広島県東広島市)で200名を対象としてデータを収集した。

中国…中華人民共和国の東北地方(主に遼寧省大連市

と吉林省松原市)で200名を対象にデータを収集した。その属性は表1、表2のとおりである。

表1 被調査者の内訳

	年代	社会人	%	学生	%
日本人	全体	142	71.0%	58	29.0%
	男	72	36.0%	27	13.5%
	女	70	35.0%	31	15.5%
中国人	全体	147	73.5%	53	26.5%
	男	44	22.0%	34	17.0%
	女	103	51.5%	19	9.5%

(小数点第2位以下四捨五入)¹⁾

表2 社会人の各年齢層と性別の分布

年代	日本人			中国人		
	全体	男	女	全体	男	女
20代	22	8	14	39	9	30
以下%	11.0%	4.0%	7.0%	19.5%	4.5%	15.0%
30代	32	23	9	39	12	27
%	16.0%	11.5%	4.5%	19.5%	6.0%	13.5%
40代	28	20	8	31	15	16
%	14.0%	10.0%	4.0%	15.5%	7.5%	8.0%
50代	26	8	18	24	9	15
%	13.0%	4.0%	9.0%	12.0%	4.5%	7.5%
60代	34	13	21	14	5	9
以上%	17.0%	6.5%	10.5%	7.0%	2.5%	4.5%

II. 労働のあいさつについての分類

1. 質問文

- (1) 仕事を終えようとして仲間に言いかけるあいさつ
仕事のきりが良かったり、終わりの時間が近づいたりしたときに、仲間の人に「そろそろ仕事をおしまいにしようよ」と誘う言い方をどう言いますか。
- (2) 先に帰る人がまだ仕事をしている人にするあいさつ
 - ①仕事を終えて帰るとき、年下の同僚は年上の同僚にどのようなあいさつをしますか。
 - ②①に応じて、年上の同僚は、どのようなあいさつをしますか。
 - ③仕事を終えて帰るとき、年上の同僚は年下の同僚にどのようなあいさつをしますか。
 - ④③に応じて、年下の同僚は、どのようなあいさつをしますか。

2. 分類の方法

あいさつ表現に関する用例を分類して、共通点と特徴を抜き出す。各項目のデータは、まずA「相手に関

するもの」 B「自らの行動に関するもの」 C「定型反応、応答に関するもの」の3種類に分け、次に具体的な表現形式によって分類する。

3. 発想法による分類

各表現形式を発想法によって分類すると次の通りである。

A. 相手に関するもの	手伝う 進度 激励 相手の帰宅 相手の終了 体調 あとのお願い
B. 自らの行動に関するもの	終了 帰る 時間告知 説明して帰る 頑張る気持ちを表現して帰る 恐縮 定型辞去
C. 定型反応、応答に関するもの	定型簡略反応 進度に関する応答 感謝の応答 定型応答

Ⅲ. 労働のあいさつについての分類、統計および考察

1. 仕事を終えようとして仲間に言いかけるあいさつについて

本節における表現の分類及び統計は次の通りである。

表現の分類

A 相手に関するもの	a	手伝う
	b	進度
	c	激励
	d	体調
B 自らの行動に関するもの	a	終了
	b	帰る
	c	時間告知

統計表 1

	回答(言い方)	中国		日本	
	全回答者数	176		183	
	複数文の回答人数	105		22	
	回答表現形式の延べ数	295		207	
相手に関する	手伝う	9	3.1%	1	0.5%
	進度	34	11.5%	1	0.5%
	激励	107	36.3%	0	0.0%
	体調	1	0.3%	10	4.8%
自らの行動	終了	18	6.1%	122	58.9%
	帰る	61	20.7%	59	28.5%
	時間告知	65	22.0%	14	6.8%

1.1. 発想法・表現形式における中日差異(単文の場合)(紙幅の都合上、代表的な事象のみ取り上げる。2以降についても同様。)

以上の表現の分類及び統計により、日本の表現形式で一番多いのは、「終了」の表現形式であることがわかる。具体的な事象は次の通りである。

- 「終了」 ・そろそろ、終わりにしませんか?
・そろそろ、しましましょう
・そろそろ、きりあげよう
・そろそろ、片づけますか?

次に多いのは、「帰る」と「時間告知」の事象である。

- 「帰る」 ・帰りましょう
・そろそろ、あがりませんか?

- 「時間告知」 ・そろそろ時間ですよ
そのほかの表現形式は以下通りである。

- 「手伝う」 ・何か手伝うことがある?
○「進度」 ・あとどれ位かかる?
○「体調」 ・お疲れ様です
・ご苦労さん

以上、統計表1から分かるように「自らの行動に関するもの」の発想法に基づいた表現形式が9割以上を占めていることが知られる。

これに対して、中国の方は「激励」の表現形式が一番多く見られる。具体的な事象として、

- 「激励」 ・快点干/抓紧工作(速くしてね)
・加油(がんばって)

という回答を得た。しかし、「激励」の表現形式は、日本では見られない。この点が日本と中国との大きな差異として指摘できる。

中国で「激励」の次に多く用いられる表現形式は、「帰る」と「時間告知」の表現形式である。

- 「帰る」 ・我先走了(先に帰ります)
・走不走(帰りませんか)
○「時間告知」 ・到时间了(そろそろ時間ですよ)
・快下班了(そろそろ退勤時間だ)

この二つの表現形式は、「自らの行動に関するもの」の発想法に基づくものである。しかし、日本で最も多い「終了」の表現形式は中国では少ない。

- 「終了」 ・做完了吗?(終わりましたか?)
・我做完了(終わりました)

そのほかの表現形式は以下の通りである。

- 「手伝う」 ・有什么帮忙的吗?(何か手伝うことがある?)
○「進度」 ・还要多久能完?(あとどれ位かかる?)
・加班吗?(残業しますか?)
○「体調」 ・今天大家辛苦了(お疲れ様です)

「帰る」の表現形式は中国は20.7%, 日本は28.5%であり, 差はあまりない。ただし, 日本は「終了」の表現形式が多く, 中国は「時間告知」「激励」「進度」の表現形式が多いという差異が見られる。

1.2. 発想法・表現形式における中日差異 (複数文の場合)

日本側における複数文の実際は次の通りである。

- 「終了」+ x
x = 「帰る」(9)²⁾ / 「時間告知」(1) / 「体調」(2)
- 「時間告知」+ x
x = 「終了」(1) / 「帰る」(4)
- 「体調」+ x
x = 「終了」(3) / 「終了」+ 「帰る」(1) / 「時間告知」+ 「終了」(1)
発想法によって表現形式をまとめれば, これらは主に「自らの行動に関するもの」の言い方である。

中国側における複数文の実際は次の通りである。

- 「進度」+ x
x = 「手伝う」(2) / 「激励」(1) / 「激励」+ 「帰る」(2) / 「激励」+ 「時間告知」(1)
- 「激励」+ x
x = 「手伝う」(1) / 「終了」(1) / 「帰る」(31) / 「時間告知」(13) / 「時間告知」+ 「帰る」(2)
- 「終了」+ x
x = 「進度」+ 「手伝う」(2) / 「激励」(2) / 「激励」+ 「帰る」(2) / 「帰る」(7)
- 「時間告知」+ x
x = 「手伝う」(1) / 「進度」(16) / 「進度」+ 「激励」(1) / 「激励」(11) / 「激励」+ 「手伝う」(1) / 「激励」+ 「帰る」(2) / 「終了」(1) / 「帰る」(4)
- 「体調」+ 「終了」+ 「帰る」(1)

中国では, 「激励」と「時間告知」に関する表現形式が多く使用されることが分かる。「激励」+ 「帰る」/ 「激励」+ 「時間告知」/ 「時間告知」+ 「進度」/ 「時間告知」+ 「激励」が多い。具体的には, 「快点做吧, 马上到点下班了。(早くしてね, そろそろ, 退勤する時間だ。)」 「加油哇, 好早点下班。(はやく帰るために, 頑張ろう。)」などがある。

1.3. まとめ

以上, 仲間に言いかける表現形式として, 「帰る」の表現形式は日本で28.5%, 中国で20.7%であり, ともによく見られる。他方, 日本は「終了」の表現形式が58.9%であり, 非常に高い数字である。これに対して, 中国は「激励」が36.3%, 「時間告知」が22.0%である。また, 複数文の言い方から見ても, 「帰る」の表現形式と組み合わせた複数文が多く見られる。しか

し, 同じ「帰る」の表現形式と組み合わせた表現としては, 中国では「激励」「時間告知」, 日本では「終了」という表現形式の違いがある。

2. 先に帰る人がまだ仕事をしている人にするあいさつについて

本節における表現の分類は次の通りである。

表現の分類

- A 相手に関するもの
 - a 手伝う
 - b 進度
 - c 激励
 - d 相手の終了
 - e 体調
 - f あとのお願い
- B 自らの行動に関するもの
 - a 帰る
 - b 説明して帰る
 - c 頑張る気持ちを表現して帰る
 - d 恐縮
 - e 定型辞去

2.1. 年下から年上へのあいさつ

統計表2

2-1 回答 (言い方)		中国		日本	
全回答者数		189		197	
複数文の回答人数		100		30	
回答表現形式の延べ数		296		227	
相手に関するもの	手伝う	58	19.6%	1	0.4%
	進度	28	9.5%	0	0.0%
	激励	7	2.4%	0	0.0%
	相手の終了	7	2.4%	1	0.4%
	体調	18	6.1%	40	17.6%
	あとのお願い	0	0.0%	1	0.4%
自らの行動に関するもの	帰る	122	41.2%	168	74.0%
	説明して帰る	8	2.7%	1	0.4%
	頑張る気持ちを表現して帰る	4	1.4%	0	0.0%
	恐縮	7	2.4%	15	6.6%
	定型辞去	37	12.5%	0	0.0%

2.1.1. 発想法・表現形式における中日差異 (単文の場合)

年下から年上へのあいさつは中国と日本ともに「帰る」の表現形式が一番多く見られる。その具体的な表現形式は以下の通りである。

- 「帰る」

日本・先に帰ります

・お先に失礼します

中国・我先走了³⁾

・一起走吗？

日本の方の74.0%と高い比率であることは注目すべきであろう。それ以外は「体調」に関する言い方と「恐縮」の言い方であり、そのほかの表現形式は少ない。

- 「体調」
 - ・お疲れさまです
 - ・ご苦労さん
- 「恐縮」
 - ・すみません、先に失礼します
 - ・申し訳ありません、先に失礼させてもらいます

一方、中国の方は「帰る」の表現形式の割合は40%と日本ほど高くなく、「手伝う」「定型辞去」「進度」の表現形式が10～20%の割合で見られる。

- 「手伝う」・有什么帮忙的吗？
- 「定型辞去」・再见/明天见(さようなら/また明日)
- 「進度」
 - ・工作怎么样了？(仕事はどうですか？)
 - ・你忙着(忙しくしていますね)
 - ・慢慢做(ごゆっくり)

また、中国で「体調」に関する表現形式は6.1%の比率であり、日本の17.6%の比率より少ない。

- 「体調」
 - ・辛苦了
 - ・注意身体(ご自愛ください)

2.1.2. 発想法・表現形式における中日差異(複数文の場合)

日本側における複数文の実際は次の通りである。

- 「帰る」+ x
x = 「体調」(7) / 「相手の終了」(1) / 「あとのお願い」(1)
- 「恐縮」+ x
x = 「体調」(1) / 「説明して帰る」(1)
- 「体調」+ 「帰る」(18)

日本で一番多く見られるのは「帰る」と「体調」の表現形式である。複数文においても、「体調」と「帰る」の表現形式が多い。

中国側における複数文の実際は次の通りである。

- 「進度」+ x
x = 「手伝う」(5) / 「帰る」(13) / 「帰る」+ 「定型辞去」(2) / 「帰る」+ 「体調」(1) / 「説明して帰る」(1)
- 「帰る」+ x
x = 「手伝う」(16) / 「進度」(2) / 「激励」(4) / 「激励」+ 「定型辞去」(1) / 「説明して帰る」(2) / 「頑張る気持ちを表現して帰る」(1) / 「定型辞去」(20) / 「定型辞去」+ 「体調」(1) / 「体

調」(3) / 「相手の終了」(3)

- 「説明して帰る」+ 「進度」(1)
- 「恐縮」+ x
x = 「激励」(1) / 「帰る」(5) / 「説明して帰る」(1)
- 「体調」+ x
x = 「手伝う」(1) / 「帰る」(2) / 「帰る」+ 「定型辞去」(2) / 「頑張る気持ちを表現して帰る」(1) / 「定型辞去」(1) / 「相手の終了」(2)
- 「相手の終了」+ 「手伝う」(2)
- 「激励」+ 「帰る」(1)
- 「定型辞去」+ 「進度」(1)

中国も日本と同じく「帰る」と組み合わせた表現形式が多く見られる。しかし、組み合わせる表現形式として、「手伝う」「進度」「定型辞去」の場合が多く用いられる。

2.2. 年上から年下へあいさつ

統計表3

	2-3 回答(言い方)		中国		日本	
	全回答者数		187		193	
	複数文の回答人数		84		51	
	回答表現形式の延べ数		282		250	
相手に 関する	手伝う	18	6.4%	0	0.0%	
	進度	33	11.7%	1	0.4%	
	激励	37	13.1%	2	0.8%	
	相手の終了	49	17.4%	4	1.6%	
	体調	16	5.7%	80	32.0%	
	あとのお願い	1	0.4%	6	2.4%	
自らの 行動	帰る	99	35.1%	133	53.2%	
	恐縮	1	0.4%	3	1.2%	
	定型辞去	28	9.9%	21	8.4%	

2.2.1. 発想法・表現形式における中日差異(単文の場合)

日本では、年上から年下へのあいさつ表現は年下から年上への表現と同じく「帰る」の表現形式が一番多い。しかし、その比率は年下から年上へのあいさつの74%と比べて53.2%とやや下がる。

- 「帰る」
 - ・先に帰ります
 - ・先に上がります
 - ・お先に失礼します

それに対して、「体調」に関する表現形式が17.6%から32%に上がる。また、「恐縮」に関する表現形式の比率が低くなると同時に8.4%の「定型辞去」の表現形式があらわれる。

- 「体調」
 - ・お疲れ

- 「恐縮」
 - ・ご苦労さん
 - ・すみません、先に失礼します。
 - ・申し訳ありませんが、先に失礼させていただきます。
- 「定型辞去」
 - ・また / じゃあ / さようなら / バイバイ

中国側の「体調」に関する表現形式において、上下関係による変化はあまりないが、比率は日本より低い。「恐縮」「定型辞去」により表現形式の上下関係による変化もあまりない。

- 「体調」
 - ・辛苦了
 - ・注意身体
- 「恐縮」
 - ・不好意思，我先走了（すみませんが、先に帰ります）
- 「定型辞去」
 - ・再见 / 拜拜 / 明天见

中国の方は日本と同じく「帰る」の表現形式が一番多い。ただ、その比率は年下から年上への場合よりその比率はやや低くなる。

- 「帰る」
 - ・我先走了
 - ・一起走吗

「手伝う」の表現形式も年下から年上への場合よりその比率は低くなる。それに対して、「進度」の表現形式の比率が上がる。加えて、「激励」と「相手の終了」の表現形式の比率も大幅に上がっていることが分かる。

- 「手伝う」
 - ・有什么帮忙的吗
- 「進度」
 - ・工作怎么样啊
 - ・你忙着
 - ・慢慢做
- 「激励」
 - ・抓紧时间
 - ・加油 / 加把劲
- 「相手の終了」
 - ・路上小心（気をつけて）
 - ・早点回家（早く帰ってください）

「手伝う」「進度」「激励」「相手の終了」の表現形式は日本ではほとんどないか或いは少ない。

- 「進度」
 - ・終わりにしましょう
- 「激励」
 - ・頑張って
- 「相手の終了」
 - ・あまり遅くならないで

その他、「あとのお願い」の表現形式は日本及び中国ともに年下から年上への表現形式より比率は少し高くなっているが、全体的に見ると、やはり少ない。

- 「あとのお願い」
 - 日本 ・あと、お願いします
 - 中国 ・把门锁好，关好灯

中国と日本のデータを総合して見ると、「帰る」の表現形式が一番多く、「定型辞去」の表現形式もほぼ同じ割合である。しかし、「体調」に関する表現形式は日本では32%の割合だが、中国では6%にも満たない。それに対して、中国では、「相手の終了」「激励」「進度」の表現形式が日本より多く見られる。また、「手伝う」の表現形式は日本ではほとんど見られず、中国側に顕著な表現形式だが、年下から年上へのあいさつ表現より割合は下がる。

2.2.2. 発想法・表現形式における中日差異（複数文の場合）

日本側における複数文の実際は次の通りである。

- 「体調」+ x
 - x = 「激励」(1) / 「帰る」(13) / 「帰る」+ 「相手の終了」(1) / 「定型辞去」(1)
- 「帰る」+ x
 - x = 「体調」(9) / 「激励」(1) / 「定型辞去」(1) / 「相手の終了」(2) / 「あとのお願い」(6)
- 「定型辞去」+ x
 - x = 「帰る」(12) / 「帰る」+ 「体調」(3) / 「体調」(1)

日本では年下から年上への場合と同じく「体調」と「帰る」の表現形式が多い。しかし、年上から年下へのあいさつは「定型辞去」と組み合わせた表現形式が年下から年上への場合より増える。

中国側における複数文の実際は次の通りである。

- 「進度」+ x
 - x = 「手伝う」(2) / 「激励」(1) / 「激励」+ 「帰る」(1) / 「相手の終了」(2) / 「帰る」(5) / 「帰る」+ 「相手の終了」(4)
- 「激励」+ x
 - x = 「手伝う」(1) / 「相手の終了」(1) / 「帰る」(1) / 「定型辞去」(1)
- 「体調」+ x
 - x = 「相手の終了」(1) / 「帰る」(4) / 「定型辞去」(1) / 「帰る」+ 「激励」+ 「定型辞去」(1)
- 「帰る」+ x
 - x = 「手伝う」(5) / 「進度」(6) / 「激励」(14) / 「激励」+ 「相手の終了」(3) / 「激励」+ 「定型辞去」(1) / 「相手の終了」(13) / 「体調」(2) / 「定型辞去」(9) / 「あとのお願い」(1)
- 「定型辞去」+ x
 - x = 「激励」(1) / 「体調」(1)
- 「手伝う」+ 「帰る」(2)
- 「恐縮」+ 「帰る」(1)

年下から年上への場合と同じく、「帰る」と組み合

わせた表現形式が多く見られる。ただし、組み合わせる表現形式として「定型辞去」と「手伝う」が少なくなっている。他方、「相手の終了」「進度」「激励」の表現形式が多くなっている。

2.3. まとめ

以上、帰るときの言い方として、単文の場合、「帰る」の表現形式は両国とも一番多く用いられる。また、中国では「手伝う」は年下から年上への表現形式として、「相手の終了」「激励」は年上から年下への表現形式として用いられる。日本では「体調」は年上から年下への表現形式として、「恐縮」は年下から年上への表現形式として用いられる。また、「定型辞去」について見ると、中国では上下関係による差はあまりないのに対して、日本では、年下から年上への場合には、あまり用いられない。

また、複数文の場合も、中日ともに「帰る」の表現形式と組み合わせることが多い。組み合わせる表現形式は年下から年上への場合、日本は「体調」と「恐縮」、中国は「手伝う」「進度」「定型辞去」が主に用いられる。年上から年下への場合、日本は主に「体調」と「定型辞去」、中国は「進度」「激励」「相手の終了」「定型辞去」など多様な表現形式が用いられる。

また、発想法の観点から整理すると、次のようにまとめることができる。

「相手に関するもの」の場合、年下から年上に対して、日本では「体調」、中国では「手伝う」「進度」の表現形式が用いられる。他方、年上から年下に対しては、日本では「体調」、中国では「進度」「激励」「相手の終了」の表現形式が用いられる。

「自らの行動に関するもの」の場合、中日共に、上下関係の別にかかわらず、「帰る」の表現形式が最も用いられる。上下関係について考慮してみると、年下から年上に対して、日本では「恐縮して帰る」、中国では「定型辞去」が用いられる。他方、年上から年下に対しては、中日共に「定型辞去」の表現形式が用いられる。

3. 先に帰る人がまだ仕事をしている人にするあいさつに対する応答について

本節における表現の分類は次の通りである。

表現の分類

A	相手に関するもの	a	相手の帰宅
		b	体調
B	定型反応、応答に関するもの	a	定型簡略応答
		b	進度に関する応答
		c	感謝の応答
		d	定型応答

3.1. 年上から年下へのあいさつ

統計表4

		中国		日本	
	2-2 言い方				
	答え人数	183		196	
	複数答え人数	93		30	
	回答表現形式の延べ数	290		239	
相手に	相手の帰宅	107	36.9%	18	7.5%
	体調	4	1.4%	175	73.2%
	定型簡略応答	66	22.8%	2	0.8%
定型反応	進度に関する応答	31	10.7%	0	0.0%
	感謝の応答	31	10.7%	0	0.0%
	定型反応	51	17.6%	34	14.2%

3.1.1. 発想法・表現形式における中日差異（単文の場合）

一番多い表現形式は、日本では73.2%の「体調」（「お疲れ様です」など）の言い方である。この言い方は、中国では1.4%しか回答されていない。

○「体調」

日本・お疲れ様です

・ご苦労さん

中国・辛苦了

・注意身体

中国では「相手の帰宅」と「定型簡略応答」の表現形式が一番多い。しかし、この表現形式は日本ではあまり回答されていない。一方、日本では「体調」の次に「定型反応」の表現形式多く用いられる。この回答比率は中国でも同じである。

○「相手の帰宅」

日本・気をつけて

・お帰りください

中国・路上小心

・你先走吧（先にお帰りください）

・慢走（ゆっくりお帰りください）

○「定型簡略応答」

日本・さようなら / じゃあ / また / また明日

・はい / おう / ああ / どうぞ / いいですよ

中国・再见 / 明天见

・嗯 / 哎 / 好的（おう / はい / いいですよ）

○「定型反応」

日本・おやすみなさい

・失礼します

中国・不用了, 不用（結構です）

・没事儿（いいえ, 大丈夫です）

・晚安

その他は「進度に関する応答」と「感謝の応答」の

表現形式が中国では10.7%の割合で見られる。しかし、日本側においてこの二つの表現形式は見られない。

○「進度に関する応答」

- ・我马上就做完了(私もそろそろ終わります)
- ・工作做完我就走(仕事が終わったら私も帰ります)
- ・再做一会儿(もうちょっとします)

○「感謝の応答」・谢谢(ありがとうございます)

質問文(2)－①では、中国、日本ともに「帰る」の表現形式が多かった。しかし、その反応である(2)－②では、中国と日本とは用いられる表現形式の回答比率に差がある。

3.1.2. 発想法・表現形式における中日差異(複数文の場合)

日本側における複数文の実際は次の通りである。

○「体調」+ x

x = 「相手の帰宅」(6) / 「定型簡略反応」(3) / 「定型応答」(1)

○「定型簡略反応」+ x

x = 「体調」(11) / 「相手の帰宅」(4) 「体調」+ 「相手の帰宅」(3)

○「相手の帰宅」+ 「体調」(1)

「体調」と組み合わせる表現形式が一番多く見られる。「体調」と組み合わせる表現形式として、「定型簡略反応」と「相手の帰宅」の表現形式が目立つと言える。以上の表現形式以外はほとんど見られず、三つの表現形式が日本の特徴だと結論づけられる。

中国側における複数文の実際は次の通りである。

○「相手の帰宅」+ x

x = 「定型簡略反応」(10) / 「進度に関する応答」(13) / 「進度に関する応答」+ 「定型簡略反応」(1) / 「感謝の応答」(1) / 「定型応答」(4) / 「定型応答」+ 「感謝の応答」(1)

○「定型簡略反応」+ x

x = 「相手の帰宅」(12) / 「相手の帰宅」+ 「進度に関する応答」(1) / 「進度に関する応答」(2) / 「定型応答」(2)

○「感謝の応答」+ x

x = 「相手の帰宅」(6) / 「進度に関する応答」(5) / 「定型応答」(3) / 「定型応答」+ 「相手の帰宅」(2) / 「定型応答」+ 「相手の帰宅」+ 「進度に関する応答」(1)

○「定型応答」+ x

x = 「相手の帰宅」(13) / 「相手の帰宅」+ 「進度に関する応答」(3) / 「定型簡略反応」(2) / 「進度に関する応答」(1) / 「進度に関する応答」+ 「相手の帰宅」(1) / 「感謝の応答」(5) / 「感謝

の応答」+ 「相手の帰宅」(1) / 「感謝の応答」+ 「定型簡略反応」(1)

○「進度に関する応答」+ 「相手の帰宅」(1)

複数文では、さまざまな表現形式が用いられるが、突出して用いられるものは特に見あたらない。

3.2. 年下から年上へあいさつ

統計表5

	2-4 回答(言い方)	中国		日本	
	全回答者数	185		187	
	複数文の回答人数	77		27	
	回答表現形式の延べ数	243		190	
相手に	相手の帰宅	85	31.0%	9	4.2%
	体調	1	0.4%	163	75.8%
定型反応・応答	定型簡略応答	96	35.0%	17	7.9%
	進度に関する応答	18	6.6%	0	0.0%
	感謝の応答	43	15.7%	1	0.5%
	定型反応	31	11.3%	25	11.6%

3.2.1. 発想法・表現形式における中日差異(単文の場合)

日本では「体調」の表現形式が75.8%と多く見られる。それに対して、中国では0.4%の割合しかない。

○「体調」

- 日本 ・お疲れ
- ・ご苦労さん
- 中国 ・辛苦了
- ・注意身体

次に、日本では「定型反応」「定型簡略応答」の表現形式が続く。「定型反応」の比率は中国とほぼ同じである。「定型簡略応答」の表現形式は中国では一番多く、これは、日本の三、四倍の割合である。

○「定型反応」

- 日本 ・おやすみなさい
- ・失礼します
- 中国 ・不用了, 不用
- ・没事儿 / 没关系 / 不累

○「定型簡略応答」

- 日本 ・さようなら / また明日
- ・はい / おう / ああ / どうぞ / いいですよ
- ・わかりました / かしこまりました
- 中国 ・再见 / 明天见 / 拜拜
- ・嗯, 好的 / 哎
- ・知道了 / 我会的

また、「相手の帰宅」の表現形式は年上から年下への場合と同じく中国と日本では大きな差異がある。「感

謝の応答」は日本にも見られるが、数は少ない。「進
度に関する応答」の表現形式も日本側には見られな
い。

○「相手の帰宅」

- 日本 ・気をつけて
・お帰りください
中国 ・路上小心
・早点回家
・你先走吧
・慢走

○「感謝の応答」

- 日本 ・ありがとうございます
中国 ・谢谢

○「進度に関する応答」

- 中国 ・我马上就做完了
・工作做完我就走
・再做一会儿

3.2.2. 発想法・表現形式における中日差異（複数文
の場合）

日本側における複数文の実際は次の通りである。

○「体調」+ x

x = 「相手の帰宅」(4) / 「定型簡略反応」(3) / 「感
謝の応答」(1) / 「定型応答」(9)

○「定型簡略反応」+ x

x = 「体調」(6) / 「定型応答」(1) / 「定型応答」
+ 「相手の帰宅」(1)

○「定型応答」+ 「相手の帰宅」(1)

○「相手の帰宅」+ 「体調」(1)

複数文の答えが少ないと同時に、年上から年下への
場合と同じく、「体調」に関しての表現形式と組み合
わせることが多いことが分かる。

中国側における複数文の実際は次の通りである。

○「相手の帰宅」+ x

x = 「定型簡略反応」(10) / 「進度に関する応答」(7)
/ 「感謝の応答」(1)

○「定型簡略反応」+ x

x = 「相手の帰宅」(17) / 「相手の帰宅」+ 「進
度に関する応答」(2) / 「進度に関する応答」(1)
/ 「感謝の応答」(4) / 「定型応答」(1)

○「進度に関する応答」+ x

x = 「相手の帰宅」(1) / 「相手の帰宅」+ 「定型
簡略反応」(1) / 「感謝の応答」(1) / 「定型
応答」(1)

○「感謝の応答」+ x

x = 「相手の帰宅」(2) / 「相手の帰宅」+ 「相手
の終了」(1) / 「相手の帰宅」+ 「定型簡略反応」

(1) / 「相手の帰宅」+ 「進度に関する応答」(1)
/ 「定型簡略反応」(4) / 「定型応答」(10) / 「定
型応答」+ 「相手の帰宅」+ 「定型簡略反応」(2)

○「定型応答」+ x

x = 「相手の帰宅」(4) / 「進度に関する応答」(1)
/ 「進度に関する応答」+ 「感謝の応答」+ 「相
手の帰宅」(1) / 「感謝の応答」(2)

年上から年下への場合と同じく、複数文の表現形式
はさまざまな形式で表現された。また、日本の場合と
比べると複数文のバリエーションの多さは注目すべき
である。

3.3. まとめ

以上のことから、日本側では「体調」に関する表現
形式が圧倒的な数にのぼることが分かる。これに対し
て、中国では、各種類の表現形式は同時に存立する場
が多く、「体調」に関する表現形式は少ない。「定型
反応」は、日本でも中国でもほぼ同じ割合である。ま
た、中国では「相手の帰宅」「定型簡略反応」の表現
形式が多いけれども、日本ではそれが少ない。「進
度に関する応答」と「感謝の反応」も日本ではないかあ
るいは少ない。

また、複数文の場合、日本では複数文の形態が少な
いと同時に、「体調」と組み合わせる表現形式が多い。
「体調」に関しては定型的な表現形式になりつつある
と考えられる。一方、中国では、複数文の形態が多い。
日本のように統一的ではなく、さまざまな複数文で表
現されるのである。

IV. 終わりに

本稿の結論として、以下の5点を掲示することがで
きる。

- ①仕事を終えようとして仲間に言いかけるあいさつに
おいて、日本側では、「終了」「帰る」、中国側では、
「激励」「時間告知」「帰る」の表現形式が多く用い
られることが注目される。
- ②先に帰るときに言いかけるあいさつにおいて、上下
関係から見ると、日本側では、年下から年上への場
合、「体調」「帰る」の表現形式に偏っている。また、
「定型辞去」は年上から年下への表現形式であると
認められる。中国では、「手伝う」は年下から年上
への表現形式であり、「激励」「相手の終了」は年上
から年下への表現形式であると認められる。
- ③応答として、日本側では、「お疲れ様」というよう
な定型的な表現形式が圧倒的に多い。他方、中国側
では、相手に即した複数文を伴うことが多い。
- ④日本側には定型的あいさつ表現形式が多く見られ

る。それに対して、中国側では、あまり定型のあいさつの表現形式が見られない。すなわち、より具体的な行動や相手への気遣いを表現するため、複数文による表現形態が用いられる。単文では、言い表せられない場合が多いからである。

- ⑤最後に、文化庁（2006）には、本稿に関わる研究が見られる。同書では、仕事を終えた時に会社の同僚にどのようなあいさつをするかについて、選択形式のアンケート調査を行っている。例えば、「お疲れ様」と「ご苦労様」を併せて、年下から年上に対しては84.3%、年上から年下に対しては89.5%の回答を得ている。しかし、本稿では、自由記述形式のアンケート調査を行った結果、上記のような場面では、年下から年上に対して17.6%、年上から年下に対しては32.0%の回答となった。本稿の結果は、自由記述であることから、より実態に近い割合ではないかと考えられる。さらに、本稿では、上記のあいさつに対する応答の表現についても調査を行っている。その結果、「お疲れ様」と「ご苦労様」などの表現形式が、年上から年下では72.3%、年上から年下では75.8%用いられることが明らかとなった。したがって、「お疲れ様」「ご苦労様」などの表現形式は、仕事が終わったときに同僚にかけるあいさつ表現というよりも、その応答表現として用いられていることが指摘できる。また、それを中日間で比較したことも、本研究の特色の1つである。

以上、帰納した五つの事実は管見によるかぎり、労働のあいさつについての初めての見解と言えるであろう。

【注】

- 1) 表中の数字はすべて少数点第二位以下四捨五入である。
- 2) () 内の数字は回答人数である。
- 3) 中国語の日本語訳は一度のみ行い、再出の際は省略する。

【参考引用文献】

- 宇佐美まゆみ（1999.5）「交感的コミュニケーションとしてのあいさつ行動」『国文学解釈と教材の研究』44巻6号 pp.83-89 学燈社
- 江端義夫（2000.11）『全国あいさつ行動資料』広島大学教育学部国語文化教育学研究室
- 江端義夫（2001.3）「A Geolinguistic Study on the Greeting Expressions and Behavior in Japan」『社会言語科学』第3巻第2号 pp.27-38
- 岡部悦子（2001.03）「別れの「あいさつ」に関する一考察－日本語教育の視点から」『国語学研究与資料』15 pp.29-42 早稲田大学文学部
- 樺島忠夫（1963.9）『表現論：ことばと言語行動』綜芸舎
- 国立国語研究所（1990.5）『場面と場面意識』三省堂
- 国立国語研究所（1984.3）『言語行動における日独比較』三省堂
- 沢木幹栄・杉戸清樹（1999.5）「世界のあいさつ言葉の対照研究に向けて－あいさつ言葉への視点」『国文学 解釈と教材の研究』44巻6号 pp.126-138 学燈社
- 施暉（2005.6）「中日両国語に於ける「あいさつ」についての比較対照研究－大学生の「家庭」「訪問」「公園」での「あいさつ」言語行動を中心に」『国文学攷』188号 pp.17-34
- 卜雁（1990.12）「あいさつ行動様式に関する基礎的探究：日・中語あいさつ表現の比較を中心として」『日本文化研究：筑波大学大学院博士課程日本文化研究学際カリキュラム紀要』2号 pp.131-148 筑波大学
- 野元菊雄・野林正路（1977.7）『ことばと文化』三省堂
- 藤原与一（1992.12）『あいさつことばの世界』武蔵野書院
- 文化庁（2006.7）『平成17年度国語に関する世論調査 日本人の敬語意識』独立行政法人国立印刷局
- 王健宜（1999.3）「语言表达与日本人的感情世界」『日语学习与研究』pp.6-10 日语学习与研究杂志社
- 王秀文・孫文（2004.7）『日本文化与跨文化交际』世界知识出版社
- 徐萍飞（2002.4）「日语的定型化表达与日本人的思维方式」『浙江大学学报（人文社会科学版）』pp.80-85 浙江大学